



いのち・性・AIDSを見つめる

Living with AIDS

208 号のニュースレター

1 面～3 面	ゼロからのスタートも時を得て 理事長 笹田克子
4 面～5 面	大きな寄付を戴きました 事務局長 堀尾吉晴
6 面	性犯罪を厳罰化する改正刑法が成立しました 中野久恵
7 面	2016 年度電話相談部会事業報告
8 面	いよいよ、第 25 期ボランティア学校が開校します／お知らせ

ゼロからのスタートも時を得て

理事長 笹田 克子

万葉の時、25 周年目の総会を終えることができました。

横浜市大医学部のエイズに関するリカレント講座の公募を新聞紙上で知り、何が何でも参加したいと思ったことが甦ってきました。

海外出張中に機内で何気なく読んだタイ国のエイズの記事は、漠然と対岸の火事ではないと感じながらも他人事として忘れかけていました。そんな折、留学中の息子から、アメリカではエイズが大きな問題となっており、知り合いが二人も亡くなったと聞き、心配とともにタイ国の記事が甦りじっとしていられない気持ちになったものです。

この頃、エイズに対する考え方は無知そのものの時代でした。その状況を打開するにはどうしたらいいのか本気で考えました。

活動の最初の一步は、仕事帰りに寄った写真展で『再び戦争が始まった。取るべき武器は教育』、このフレーズに出会ったのです。当時、リカレント講座に参加した人は約 150 人。その中には、医師、歯科医師、検査技師、看護婦、電話相談員など様々な職種の人たちがいました。その中で医学知識ゼロの私がついていけるのかと同じ講座を 3 回受講した迷いの中で、自分を納得させられる言葉が返ってきました。目的を電話相談からと考えているなら『人生の経験こそがすべて』、年輪バームクーヘンが役に立つ。奮い立つ思いを覚えています。

当時、ボランティア活動を希望する人が 120 人位いました。活動のスタートを切るのに何も無いところから始まりました。マンションを無償で貸してくれた人、机やいす、電話機まで無償でいただいて電話相談室をスタートさせました。同時に日本で初めて開催された「第 10 回横浜 A I D S / S T D 国際会議」に参加しました。当初は医学知識ゼロの私でしたが、研修会・講演会、シンポジウムなどに参加することで伝える力を得ることとなり、名古屋、蒲郡、清水、山梨まで出向き、知りえたこと、実感したことを伝えてきました。活動資金調達には多くのライオンズクラブやロータリークラブ、P T A など多くの方々の支えがありました。

バブルが崩壊し、無償で借りていたマンションの一室が使えなくなり、活動の場を確保するため横浜市に活動への理解と支援を求めてきました。

この 25 年の間には、映画上映、コンサート、シンポジウム、コンドームの配布、バザー開催、6 年かけた「母と子の性教育」などを行い、実行してきたことは、「今、なすべきこと」ばかりでした。医学が発展し、A I D S は終わったかのような世間の反応ですが、あらゆる性感染症の蔓延が続いています。現在も、知識向上と会員拡大のために、ボランティア学校も続いていますし、出前講座も充実しています。横浜市の委託を受けている電話相談活動も啓発活動として横浜市になくしてはならないと自負しております。

頑張る人と共に 81 歳、もうひと頑張りします。

【A N Y の活動のひとつ】



(高校生への出前講座のようす)



(世界エイズデーのイベントに参加)



(定期総会)



(AIDS文化フォーラムにプログラム参加)



(6年間の「親と子の性教育」の活動記録
冊子づくり作業風景)



(ある日のボランティア学校風景)

大きな寄付を戴きました

事務局長 堀尾吉晴

横浜サンセット 21 ライオンズクラブ結成 10 周年記念式典

2008 年より毎年寄付を戴いている横浜サンセット 21 ライオンズクラブの結成 10 周年記念式典が 5 月 14 日、横浜ベイホテル東急で開催され、招待を受けて、事務局長が出席しました。

ライオンズクラブは 1917 年にアメリカで生まれ、「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」ことを、集団のチームワークで有意義に効果を高める目的の友好団体です。日本では 3300 以上のクラブがあり、10 万人以上の会員を有しています。

横浜サンセット 21 ライオンズクラブは 2008 年結成以来様々な奉仕活動が続けていて、特に「AIDS ネットワーク横浜」、「Re ライフスタイル」＝世界の子どもたちへのポリオワクチンを送るためのペットボトルキャップ回収、「カーボンフリーコンサルティング株式会社」＝中国内モンゴル自治区への砂漠化防止の植林事業、への支援を継続されています。今回は 10 周年記念として、例年の寄付に加えて、それぞれの団体に 30 万円相当の寄付の贈呈があり、AIDS ネットワーク横浜には例年分と併せて 50 万円の寄付を頂きました。



見えないところへの奉仕に大きな感謝を

式典では、3 法人がそれぞれ会長から贈呈を受けたのですが、「Re ライフスタイル」は過去 9 年間でキャップ約 29 t＝ポリオワクチン 23,198 人分、「カーボンフリーコンサルティング株式会社」は同じくカラマツ 1,249 本＝CO₂ 削減 312.25 t と寄付の内容や効果が具体的

な数値で判りやすく表すことが出来るのに対し、AIDSネットワーク横浜は210万円と、額を伝えることが出来るだけでした。これはやむをえないことで、AIDSネットワーク横浜の活動の目的が、「新規感染者を減らしていくこと」、「不安を抱える人を検査に向かわせること」、「差別・偏見の意識をなくしていくこと」・・・と、多岐にわたるだけでなく、成果も「感染したであろう人のうち・・・人が感染せずに済みました」とか、「活動の結果、実際に検査に行った人は・・・人でした」など、数値化できない活動なのです。

そのような活動＝効果が明瞭には見えない活動＝に対して、長期にわたって寄付をし続けてくださることは、本当に大いなる奉仕の精神と思われ、感謝に耐えません。

当日は少し時間を戴き、「24歳で感染、25歳で薬剤投与、74歳で死亡の場合、生涯の医療費は1億2500万円、保険で8750万を負担し、諸医療制度で行政が3150万を負担、自己負担が600万となります。感染者が1人減れば、その負担は0になります」という話をさせていただきました。

AIDSネットワーク横浜の活動で、ボランティア学校・文化フォーラムで148の方に受講いただいたこと、世界AIDSデーで200人以上に参加戴いたこと、約800人の方から電話相談を受けたこと、出前講座で3,000人を超す若者に話が出来たことなど、数値化できることを広く発表していく大切さも実感させていただきました。

横浜サンセット21ライオンズクラブのますますの発展を祈念致します。

性犯罪を厳罰化する改正刑法が成立しました

中野久恵

刑法の性犯罪改正案が閣議決定され、1907（明治40）年の刑法制定以来、初めての性犯罪改正案が成立しました。政府は、先に提出されたものを先に審議するという慣例を破り、「共謀罪法案」を先に審議入りさせ、成立を危うく思っていました。やっと6月2日に審議入りし6月16日に成立しました。23日に公布され、7月13日に施行されます。

6月16日の参院法務委員会では、13歳から7年間父親から性暴力を受けた山本潤さん（43）が参考人として招致され、自らの体験から「法改正が加害者の適正な処罰につながり、社会の関心が広く性被害の実態に向くようになればと願う」と話しました。

また、参院法務委員会は、強姦罪の性別規定が撤廃されることを踏まえ、性的少数者（LGBTなど）への配慮を求める付帯決議案を全会一致で可決しました。警察や検察、裁判所などに偏見に基づいて被害者に対して不当な扱いをしないよう、「関係機関に研修などを通じて徹底させるよう努めること」としました。

被害者にとっては魂の殺人ともいわれる苦痛に対して法的な面で整備が行われることは望ましいことです。大切なことは、性暴力被害者の救済が行われることであり、性と人権が問い直される社会の仕組みを作っていくことです。

【改正法の主な点】

○「監護者わいせつ罪」、「監護者性交等罪」を新設し、生活を支える立場の親などが影響力に乗じて18歳未満に及んだ行為を処罰する。

○強姦罪、強制わいせつ罪は、被害者の告訴がなくても罪に問える「非親告罪」とする。

○強姦罪の名称を、「強制性交等罪」に改め、男女とも加害者・被害者になる。法定刑は「懲役3年以上」から「懲役5年以上」に引き上げる。「姦淫」に加えて、「肛門性交または口腔性交」もあわせて「強制性交罪」として同等に処罰する。

○強盗と強姦が同じ機会に行われた場合、その前後を問わず「無期または懲役7年以上」に罰則を統一する。

【改正刑法のポイント】

	現行法	改正法
強姦罪の法定刑	懲役3年以上	強制性交等罪に改め、懲役5年以上に。性交に類似した行為も処罰の対象に
被害者の告訴	必要	不要
親の立場などに乗じた行為への罰則	なし	監護者性交等罪と監護者わいせつ罪を新設

【2016年度電話相談部会事業報告】

(電話相談開設状況)

毎週水曜日の18:00～21:00、土曜日の15:00～18:00

相談員13名、延べ190名が担当した。

(相談件数と相談内容)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	活動日数	9	7	9	9	6	8	9	7	7	7	8	9	95
	相談件数	68	62	97	96	51	66	61	53	51	51	61	77	794
相談内容	感染不安	55	38	55	58	36	45	36	32	42	38	39	54	528
	検査不安	3	10	23	9	8	10	4	4	1	9	10	20	111
	情報	15	21	25	27	15	13	21	17	12	17	14	11	208
	他	5	3	10	8	1	4	7	3	3	2	1	4	51
性別	男	60	57	86	71	38	51	46	46	49	45	44	64	657
	女	9	4	12	20	12	12	15	5	2	6	7	11	115
年代	10代	6	5	3	0	3	1	3	3	2	6	1	2	35
	20代	24	20	41	29	19	31	25	22	21	28	17	19	296
	30代	27	27	32	33	12	19	16	19	18	12	18	24	257
	40代	6	2	4	17	8	9	8	5	6	4	6	8	83
	50代	1	2	6	6	4	1	3	2	1	1	6	8	41
	60以上	1	1	7	0	2	0	0	0	2	0	1	11	25
	不明	0	1	0	0	0		8	10	10	9	7		45
感染	有	1	1	3	0	0	3	2	1	2	1	0	1	15
	無	28	17	30	38	19	19	20	15	17	13	8	16	240
	不明	38	39	62	51	27	41	39	37	32	37	25	60	488
性指向	同性男	0	6	6	8	3	8	3	6	10	7	6	3	66
	同性女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	両性	1	0	3	1	0	1	2	0	0	1	2	1	12

(電話相談開設状況)

毎週水曜日の18:00～21:00、土曜日の15:00～18:00

相談員 13 名、延べ 190 名が担当した。

いよいよ、7 月 1 日から、第 25 期 AIDS ボランティア学校が開校します

今年度は、受講料無料です。5 日間にわたって A I D S の基礎・最新情報から、セクシュアリティ、社会的支援の仕組みなど多彩な内容の 10 講座を開講します。H I V に係る方、養護教諭、保健所職員、看護・介護職の方、学生の方、興味関心のある方の参加をお待ちしています。一講座だけの参加も歓迎です。多くの方の参加をお待ちしています。



お知らせ

《電話相談件数》 4 月 71 件 5 月 57 件

《出前講座予定》

6 月 21 日 横浜市福祉局 AIDS 相談対応研修講師

7 月 7 日 追浜高校定時制

7 月 13 日 横浜栄高校

7 月 18 日 三浦学苑高校

ANY ニュースレター Living with AIDS

編集発行 : 特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9F

Tel : 045-201-8808 Fax 045-201-8809

ホームページ : <http://www.netpro.ne.jp/any/> e-mail ; any@netpro.ne.jp